

教職課程登録者の意識と適応：教職課程意識調査（平成26-28年度）より 9

# 教職課程登録者の意識と適応：教職課程意識調査 （平成26-28年度）より

高橋 優・田中 正一

埼玉工業大学基礎教育センター工学部会

Registers' Adaptation to Teacher-Training Course:  
from the Result of Register Surveys (2014-2016).

## 1. はじめに

グローバル社会の進展とともに学校教育の教育内容は近年大きく変化しており、若者の職業生活も変わりつつある。こうした状況下における学生の教職への意識の変化を捉えるとともに、今後の適応を予測し指導に役立てることを目的として、教職課程では平成26年度から教職課程登録者を対象とした意識調査（教職課程意識調査）を実施している。

本稿では3年間の調査結果のうち、教職課程に登録した動機や、教員という職業へのイメージ、将来の進路をどのように描いているかを概観する。これらの結果をもとに、教職課程登録者の課程への適応を検討する。

## 2. 調査

教職課程意識調査は平成26年度より実施されており、学年ごとに一部異なる設問で構成されている。いずれも、4月上旬の教職課程ガイダンスの際に行われており、ガイダンスの出席者を対象としている。

### 2.1 調査対象者

4月上旬に開催される教職課程ガイダンスの参加者を対象に調査票を配付し、その場で回答を求め回収した。調査の開始年度である平成26年度から平成28年度にかけての学年ごとの回答者数を表1に示す。

表1 教職課程意識調査の回答者数（単位 人）

年度	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
平成26	107	63	37	40	247
平成27	111	45	51	25	232
平成28	50	46	36	38	170

教職課程ガイダンスは教職課程登録者および登録希望者を対象として実施されている。1年生を対象としたガイダンスの場合、参加者のほとんどはガイダンス時点では教職課程に登録しておらず、ガイダンス後に登録するかを判断するため、1年生の回答の中には最終的に教職課程に登録しない者のものも含まれている。

## 2.2 調査票

無記名のマークシートによる調査票を用いた。調査票では、入学動機（1年生のみ）、教職への登録動機（平成26年度は全学年、平成27年度以降は1年生のみ）、教職の認識（同左）、教職の志望、教職課程への要望、教員採用試験の受験予定（2年生以上）、受験における課題（平成27年度以降の2年生以上）、企業等との併願意向（平成26年度は2年生以上、平成27年度以降は3年生以上）、教職に向けての課題を尋ねた。このうち、入学動機、教職への登録動機、教職の認識、教職課程への要望、受験における課題、教職に向けての課題は複数回答とした。

この他、回答者の属性に関する情報として学部学科、性別、取得希望免許の校種・教科を尋ねた。なお、設問と選択肢を付録に示した。

調査票はSQS（Shared Questionnaire System）<sup>1</sup>によって作成した。

## 3. 結果

本稿では学生の教職への適応の観点から、教職への登録動機、教職の認識、教職の志望について見ていくこととする。

### 3.1 教職への登録動機

「教職課程科目を履修する理由は何ですか」という設問に対する1年生の回答結果について、年度ごとに各選択肢の選択された比率（%）を求めたものを表2に示す。

表2 教職課程に登録した動機（1年生・複数回答、単位 %）

年度	以前から	尊敬する教師	勧められて	何となく	資格有利	その他
平成26	24	24	32	17	47	6
平成27	27	20	26	17	39	5
平成28	46	30	32	10	38	0

表2を見ると、平成26・27年度では「資格を取ると就職の時に有利だか

<sup>1</sup> [http://dev.sqs2.net/projects/sqs/wiki/Overview\\_ja](http://dev.sqs2.net/projects/sqs/wiki/Overview_ja)

ら」（資格有利）が最も高く、平成28年度でも「以前から教員になりたかったから」（以前から）に次いで高かった。年度により順序は異なるが、「資格有利」に加えて「以前から」、「親や恩師などから勧められたから」（勧められて）、「小中高校時代の尊敬する教員のようにになりたいから」（尊敬する教師）といった回答が多く選択された。一方、「何となく履修したいと思ったから」という回答はどの年度でも2割に達することはなく、選択される割合は相対的に低かった。

平成26年度の調査では、教職への登録動機を1年生以外の学年でも調べた。その結果を表3に示す。このうち、1年生に関する数値は表2の平成26年度のものと同じである。

表3 教職課程に登録した動機（平成26年度・複数回答、単位 %）

学年	以前から	尊敬する教師	勧められて	何となく	資格有利	その他
1年生	24	24	32	17	47	6
2年生	29	30	33	14	37	3
3年生	16	16	32	8	43	8
4年生	32	28	40	18	15	10

1年生から3年生まででは「資格有利」が最も高く4割前後の回答者が選択しているが、4年生では15%に大きく減少した。一方、「以前から」「勧められて」「尊敬する教師」では、こうした4年次の減少は見られなかった。

### 3.2 教職の認識

「教職（教員という職）を主にどのように捉えていますか」という設問への1年生の回答を、年度ごとに選択肢の被選択率で表したのが表4である。

表4 「教員という職」の認識（1年生・複数回答、単位 %）

年度	授業力	生徒指導	学校改善	後で検討	その他
平成26	58	41	11	17	1
平成27	50	50	11	17	3
平成28	44	62	18	22	2

「自分が持つ専門の知識・技術を高め、授業力を高める」（授業力）や「生徒の相談や生徒指導に深く関わっていききたい」（生徒指導）といった選択肢は、4割から6割の回答者に選択された。一方、「今日の学校に欠けている部分を改善していきたい」（学校改善）、「教員として採用された後で考えたい」（後で検討）という選択肢の選択率は1,2割に留まった。

同設問について、平成26年度の調査における学年ごとの選択肢の被選択率を表5に示す。これも、1年生の値は表4の平成26年度の値と同一のものである。

表5 「教員という職」の認識（平成26年度・複数回答、単位 %）

学年	授業力	生徒指導	学校改善	後で検討	その他
1年生	58	41	11	17	1
2年生	60	60	21	10	0
3年生	57	43	14	24	3
4年生	62	65	15	5	2

1年生の場合と同様に、2年生以上でも「授業力」や「生徒指導」が多く選択されており、4年次ではともに6割を超えている。一方、「後で検討」は、3年次までは1,2割ほど選択されていたが、4年生では5%と1割を下回った。

### 3.3 教職の志望と教員採用試験の受験

「将来教職を目指しますか」という設問に対する回答の比率を年度・学年別にまとめたのが表6である。無回答のものや回答エラーは“NA”として示した。

表6 教職の志望（年度・学年別、単位 %）

年度	学年	在学中	5年以内	将来的に	資格だけ	その他	NA
平成26	1年	26	8	53	8	2	2
	2年	24	21	41	5	5	5
	3年	14	19	43	11	5	8
	4年	20	35	32	10	0	2
平成27	1年	18	13	58	10	1	1
	2年	27	9	47	16	2	0
	3年	22	12	49	18	0	0
	4年	8	12	60	20	0	0
平成28	1年	52	10	30	8	0	0
	2年	33	15	41	11	0	0
	3年	39	11	42	6	3	0
	4年	13	13	63	8	3	0

NA: Not Available.

平成28年度の1年生と平成26年度の4年生を除けば、「現在教職は考えていないが、資格が将来役立つかもしれない」（将来的に）が最も多く、

これに「在学中に教員採用試験を受験して合格したい」（在学中）や「将来（卒業後5年以内に）教職に就きたい」（5年以内）が続いた。平成28年度の1年生では「在学中」が52%で最も多く、「将来的に」が30%で次に多かった。

「在学中に」と「5年以内」をあわせたものが教員志望者となるが、平成27・28年度の4年生では2割程度であったものの、半数近い年度・学年で4割以上だった。一方、「教職に就くことは全く考えていないが、資格だけは取得したい」（資格だけ）は1割から2割だった。「資格だけ」と「将来的に」を合計することにより、卒業時点では教職を志望せず教職以外の進路を考えている者の割合を得ることができるが、いずれの年度・学年でも4割から8割と多く、半数以上の年度・学年で5割を越えた。

4年生では、「将来的に」が年度順に32%, 60%, 63%で、平成27・28年度では最も多かった。また、「資格だけ」は10%, 20%, 8%だった。

「教員採用試験を受験する予定ですか」という設問の、年度・学年ごとの回答比率を表7に示す。「はい」の者が4割前後いる一方で、「まだ決めていない」（未決）者も2年生の時点では4割ほどいた。4年生では「未決」の割合は他の学年より減少し、「いいえ」の割合が増加した。

表7 教員採用試験の受験（年度・学年別、単位 %）

年度	学年	はい	いいえ	未決	NA
平成26	2年	52	2	44	2
	3年	30	16	46	8
	4年	48	20	30	2
平成27	2年	38	16	47	0
	3年	31	25	41	2
	4年	24	44	32	0
平成28	2年	30	17	43	9
	3年	36	22	22	19
	4年	34	42	18	5

NA: Not Available.

## 4. 考察

### 4.1 教職への登録動機

教職課程に登録した動機について表2における1年生の回答を見ると、

教職を希望する学生達が教員免許を資格のひとつとして捉え、将来の進路選択における可能性を拡大するために登録していることが分かる。また、教職を単なる資格としてだけ捉えている訳ではなく、親や恩師の勧めや、尊敬する教師の存在、あるいは以前からの憧れのような思いを伴って登録していることが分かる。

学年進行に伴う登録動機の認識の変化をあらわす表3によれば、「資格を取ると就職の時に有利だから」という回答は4年生の時点で減少した。これは進路選択が具体化し実際に教員免許が自身の進路に有利に働くかははっきりすることに加え、教育関係の職業に就かないことを決めた者の一部が教職課程を離れ、回答対象から外れたためと思われる。

#### 4.2 教職の認識

教員という職業の認識に関する回答をまとめた表4を見ると、教職を目指す上で授業力や指導力を高めることの重要性を意識していることが分かる。後で考えれば良いと捉えている学生は少なく、真摯に教職に取り組もうとしていることがうかがわれる。

学年進行に伴い認識がどのように変化するかについて表5を見ると、4年次に「教員として採用された後で考えたい」とする者は1割を下回り、3年次までと比べて減少した。教育実習を目前にして、教師として自分自身の具体的な課題を認識しているものと思われる。

#### 4.3 教職の志望

表6を見ると、将来の教職の志望について「現在教職は考えていないが、資格が将来役立つかもしれない」（将来的に）という回答が最も多かった。これに「資格だけ」の者を加えた、教職以外の進路を考えている者が多くの年度・学年で過半数を占めていることが分かる。

4年生に限っても同様の傾向で、平成26年度を除けば「将来的に」が6割を占める。しかし、「将来的に」と同様に教職を目指さない「資格だけ」は、4年生の時点でも1,2割と少ない。こうした結果は、卒業時点で教職を目指さない場合でも学生達は教育への関心を維持しており、教員免許の取得に積極的な意義を見いだしているものと解釈できる。

表7によれば、教員採用試験を受験する予定の4年生は、ばらつきはあるものの2割から5割である。教職への関心を持ちつつも、半数以上が実際に教員採用試験を受験することなく、教職への挑戦を終えていることが読み取れる。

## 5. まとめ

学生達は、教職課程の登録の時点では教職を自身の進路選択を広げる資格のひとつとして捉えている。このため、登録時点ではまだ本当に教職に就くかどうか決めておらず、2年生・3年生の時点でも教員採用試験を受験するかどうか決めかねている者が4割前後を占める。いわば「様子見」の登録ではあるものの、登録の背景には親や恩師の勧め、さらに尊敬できる教師の存在があり、ただ資格のためだけというわけではないようである。教職の認識にもそうした学生の意識は表れており、「授業力」や「指導力」を教員という職業における課題として見ていることが分かる。また、表6の教職の志望について、ただ資格だけ取れば良いとする者が一貫して少ないことも、学生達が教職に真摯に向き合っていることのあらわれと言えるだろう。

しかしながら、学年が上がるにつれて教員採用試験の受験を保留していた者の多くは4年生の時点で受験しないという判断を下し、教職への挑戦を降りることとなる。受験に挑む者は半数以下であることも明らかになった。

教職課程としては、4年に進級するまでの時点で、学生の教員としての適性を見極めたり教職の意義を考えたりすることのできる機会を一層提供する必要があるだろう。教職を目指す動機を内省させることや、現場での教育体験の提供、授業力向上や生徒指導能力を高める授業は、進路として教職を選ぶかどうか判断することに役立つものと思われる。その結果として、教職という進路を選択する者を増やすことにも繋がるのではないか。

一方、最終的に教職に就かない者であっても、将来的に教職の資格が役立つかもしれないと捉えている学生の多いことが明らかになった。そうした学生に対しても、教職課程として何らかの対応が必要だろう。最終的に一般企業等への進路を選択する者にとって教職課程で学んだことがどのように役立つか、教職の資格や知識・技術が役立つような業種・職務はどのようなものか等の情報を提供することは、教職課程登録者の進路選択に資するであろう。こうした働きかけは、学生達が教職に就かない場合であっても、学生の社会への適応を高めることになる。また、教育について深い理解を持つ者が教育以外の分野に就くことは、社会全体の教育への理解を深めることにもつながる。教育が地域や企業との協力関係を深める中、その意義は拡大していると言えるだろう。



## 付録

調査票の質問項目と回答選択肢は以下の通りである。とくに注記のないものは全学年・全年度でたずねた設問である。

### ■入学動機（1年生のみ）

この大学に入学した動機は何ですか。当てはまるものをすべてマークしてください。（自分にはっきりした目的があって入学した／はっきりした目的はないが、深く高度な専門を学びたい／大学を卒業すると社会でいろいろと有利になる／特に目的はないが、受験して合格したので入学した／他に希望する大学の受験に失敗したため／もう少し社会に出ないで遊びたいから／親や教師に進学するように勧められたから／その他）

### ■教職への登録動機（平成26年度は全学年，平成27年度以降は1年生のみ）

教職課程科目を履修する理由は何ですか。当てはまるものをすべてマークしてください。（以前から教員になりたかったから／小中高校時代の尊敬する教員のようにになりたいから／親や恩師などから勧められたから／何となく履修したいと思ったから／資格を取ると就職の時に有利だから／その他）

### ■教職の認識（平成26年度は全学年，平成27年度以降は1年生のみ）

教職（教員という職）を主にどのように捉えていますか。当てはまるものをすべてマークしてください。（自分が持つ専門の知識・技能を高め、授業力を高める／生徒の相談や生徒指導に深く関わる／今日の学校に欠けている部分を改善する／教員として採用された後で考えたい／その他）

### ■教職の志望

将来教職を目指しますか。以下の項目から、一番近いものを1つ選んでください。（在学中に教員採用試験を受験して合格したい／将来（卒業後5年以内に）教職に就きたい／現在教職は考えていないが、資格が将来役立つかも说不定／教職に就くことは全く考えていないが、資格だけは取得したい／その他）

### ■教職課程への要望

教職科目を履修する上での要望はありますか。当てはまるものをすべてマークしてください。（教職科目について質問できる場がほしい／教職に関する情報がほしい／在学中に学校現場に関われる機会がほしい／教員採用試験の対策を充実してほしい／その他）



■教員採用試験の受験予定（2年生以上）

教員採用試験を受験する予定ですか。いずれか1つを選んでください。  
（はい／いいえ／まだ決めていない）

■受験における課題（平成27年度以降の2年生以上）

前問で「はい」と回答した方に伺います。教員採用試験で現在気になることはありますか。当てはまるものをすべてマークしてください。（受験対策について十分な知識がない／現在の自分の実力が分からない／受験勉強をはじめていないが間に合うか／本学の過去の受験結果が知りたい／その他）

■企業等との併願意向（平成26年度は2年生以上，平成27年度以降は3年生以上）

民間企業や教職以外の公務員と，教職の併願を考えていますか。以下の項目から，いずれか1つを選んでください。（はい，ただし，教職が優先である／はい，ただし，民間・その他公務員が優先である／いいえ，教職のみである／まだ具体的には考えていない）

■教職に向けての課題（平成27年度以降の4年生を除く）

今，気になることは何ですか。当てはまるものをすべてマークしてください。（卒業単位にプラスして教職の単位を修得する自信がない／指導案作成，模擬授業を行うことに自信がない／将来，教員になれるのか疑問を持つ／就職について，教職か，民間企業やその他公務員かで迷っている／その他）

■教職に向けての課題（平成27年度以降の4年生）

今，気になることは何ですか。当てはまるものをすべてマークしてください。（教育実習に出ることが不安である／就職活動と教育実習が重ならないか不安である／今年の教員採用試験の受験に自信がない／就職について，教職か，民間企業やその他公務員かで迷っている／卒業後，数年経ってから教員採用試験を受験したいが大丈夫か／その他）